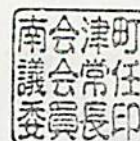




27議委第61号
平成27年11月4日

南会津町議会
議長 五十嵐 司 様

南会津町議会広報委員会
委員長 星光 久



委員会調査（平成27年度町村議会広報研修会）報告書

本委員会所管事務調査事件について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則第77条の規定により報告します。

1. 調査事件 平成27年度町村議会広報研修会

2. 調査の経過
- 1) 研修日時 平成27年10月20日(火)～21日(水)
 - 2) 場 所 東京都千代田区「シェーンバッハ・サポー」
 - 3) 目 的 議会活動に対する住民の関心と理解を深めるとともに、町民に親しみやすく、読んでいただける広報紙の作成に取り組む。
 - 4) 参 加 者 議会広報委員長 星 光久
議会広報副委員長 森 秀一

3. 研修内容

◎ 演題 「―議会広報紙の文章― 『伝える広報』から『伝わる広報』へ」

広報コンサルタント・柏崎市広報専門官 小田順子 氏

1) なぜ文章がわかりにくくなるのか？

- ◆ わかりにくいお役所文書（専門用語が使われる）
- ◆ 文章をわかりにくくしている原因（文章が長く区切りがない。説明がくどい。）
「長いほど良い文章」「難解な文章を書く人は優秀」とカン違いしている。

2) わかりやすく書くテクニック

- ◆ 見やすい文書・・・図表やイラストを。漢字を少なく。改行・空白行を。
- ◆ 読みやすい文・・・文章は短く（1文30字の原則）、不必要な語は削る。
- ◆ わかりやすい文章・・・結論を先に言う。「逆三角形の文章構造」
最も重要（結論・結果）⇒ 詳しい説明（理由・経緯）⇒ より詳しい説明

3) 伝わる文章の書き方

- ◆ 読みたくなる文章・・・ターゲット（住民）を具体的に。
「I（自分）メッセージ」ではなく「You（住民）メッセージ」でターゲットの言葉を使う（住民の言葉で書く）
- ◆ 伝わる広報文の作成手順・・・聞く・読む ⇒ 考える ⇒ 書く
情報発信より高い優先順位は情報収集
- ◆ 声なき声を聴く・・・住民が飲み込んだ言葉を聴く ⇒ クレームを減らす。

◎ 演題 「思わず手にとる 読みたくなる 議会だよりを目指して」

地域活性化センター広報室長 兼 月刊「地域づくり」副編集長 畠田千鶴 氏

1) 議会だよりの目的は。

- ◆ 読まれない理由は・・・「私には関係ない」・・・読まれていないことを知っているか。
- ◆ なぜ 読まなかったか・・・政治に無関心、「議会」アレルギー、行政用語の羅列
- ◆ 編集の力で改善も ⇒ 伝え方次第で ⇒ 思わず手にとって
表紙の魅力（写真）⇒ 身近な内容で ⇒ 議会報告は後半に（図表を利用）
- ◆ 何のために作るのか・・・「地域の問題点」と「議会の取り組み」を住民に伝えたい。

2) 誌面の工夫で思わず手にとる広報紙に（東京都あきる野市の例）

- ◆ 全国から評価の高い議会広報を取り寄せる ⇒ 市役所ロビーに市議会だよりを含む10誌を展示 ⇒ 見たい広報紙のアンケート調査 ⇒ 協力者270名（あきる野市は4%で7番目） ⇒

リニューアルを決定 ➡ 手にとられる広報紙になった

3) リニューアルは必要性と進め方は

- ◆ 誰が提案 ➡ 誰が計画 ➡ 企画・予算は ➡ 実行
- ◆ 全面リニューアルか？ クリニックで読みやすくするのか？

4) 住民参加の紙面づくりで重要なことは、議会の目的と議事内容を理解して頂くこと。

- ◆ デザインに工夫（表紙の魅力化、レイアウトなど）
- ◆ 内容はテーマ性のあるものでキャッチ
- ◆ 議会の本質を伝える（地域の課題解決など）
- ◆ 住民とのコミュニケーション

◎ 演題 「優良議会広報クリニック」

議会広報サポーター 芳野政明 氏

○ 議会広報全国コンクール審査方針・・・コンクール審査5つの指針

1) 編集体制

取材から編集まで議員自らが参画する編集体制になっているか。など

2) 企画・構成

記事の内容、配置、流れ、情報量が住民ニーズと合致しているか。など

3) 編集・デザイン

議会活動への関心を高め、読者の目を引く表紙デザインとなっているか。など

4) 言語・文章

わかりやすく、ふさわしい日本語を使っているか。など

5) 表紙写真

表現力豊かな写真（人物の表情等）となっているか。など

○ 2014年度コンクール 優良紙クリニック

1. 『議会だより だいせん』 優秀賞（全国第2位受賞）

- ◆ 定例会の議案審議状況、議決に至る流れ、ページネーションがよい。
- ◆ 住民の声もよく取り上げており、住民との一体化に努めている。
- ◆ 議事公開の水準が高い。
- ◆ 議案説明、質疑・討論などの論点整理、評決結果や賛否態度が示されている。
- ◆ 議会の視点と住民目線の企画立案・編集が追及されている。
- ◆ 「特集記事」は取材記事、「熱弁討論会」は各議員発言で構成、常設企画「みんなのひろば 声」など、企画が充実しており読みごたえがある。
- ◆ 小口部分のインデックス表示は、情報検索しやすい。
- ◆ 見出しや写真スペースを十分確保、ホワイトスペースも適正なレイアウト。
一見して「何が書いてあるか」がわかる編集となっている。
- ◆ 質疑や討論・審査内容のカコミ。文字情報を視覚化。読みやすくする工夫がある。
- ◆ 写真には住民が良く登場し、キャプションのつけ方も適切なものが多い。

2. 『かわにし議会だより』 優秀賞（全国第1位受賞）

- ◆ 議会改革の推進が住民に見える編集となっている。
- ◆ 政策形成サイクルが確立し、議会の広聴・広報活動の機能発揮がある。
- ◆ フローチャートや写真をまじえ、読み手の立場に立ち、簡潔にまとめている。
- ◆ 多彩な議会活動、議事公開の水準も高い。議事もわかりやすく、丁寧である。
- ◆ 「インタビュー 町民の声」「広報モニターから ひとこと」などの常設企画、予算に対する町民の声など、住民に目を向けた企画が優れている。
- ◆ 随所に写真を掲載、住民各層がさまざまな形で登場、住民の注目度を高めている。
- ◆ 「追跡 あれからどうなった！」などの常設企画は、議会広報らしい視点で好企画。
- ◆ 大きな見出しや広い写真スペース、適度なホワイトスペースなど編集水準が高い。
- ◆ リード文で企画意図や趣旨が記され、分かりやすく親しみの持てる議会報です。

☆ 川西町議会「議会だより」編集に関する覚え

1. 発行の目的 議会基本条例の二つの柱「町民参加の拡大」と「政策提言」を具現化
2. 編集の基本 編集は議員だけで行い、発行は定例会の翌月15日
3. 編集の日程 定例会初日の第1回から、発行までに5回程度の委員会を開催
4. 編集の方針 見出しはできるだけ大きく、見出しの文章は記事の中から決定
写真は1つの記事に最低1枚、2段以上の大きさと掲載
記事は簡潔な表現に努め、読み手を第一に考えて編集
町民参加を拡大するため、町民参加の記事をできるだけ多くする。
5. 議会広報モニター及びアドバイザー
議会だよりの充実を図るため、町民にモニター及びアドバイザーを委嘱している。

以上